

ショウジョウトンボ

Crocothemis servilia mariannae



< 生物の写真 >



< 環境写真 >

分類群	魚類	貝類・甲殻類	爬虫類・両生類	昆虫類					
種の特性	絶滅危惧種	危急種	希少種	外来種	指標種				
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄

【分布】

北海道（函館）、本州、四国、九州に分布し、東北日本では産地が限られる。離島では佐渡島、見島、吉岐、対馬、五島列島、天草諸島、甞島列島、南西諸島のほぼ全域に分布する。

【名前の由来】

和名は、成熟した雄の朱紅色の体色を猩々（しょうじょう）色に見立てたことによる。

【形態的な特徴】

体長 48mm（腹長 27～33mm、後翅長 32～37mm）ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。未成熟個体は翅全体が淡い橙黄色で、体全体も橙黄色をしていてアカトンボ類やウスバキトンボに似ている。成熟すると雄の翅は基部のみ赤化して、あとは透明になる。また体色も全体が鮮やかな赤色になる。

幼虫は、体長 18～21mm（頭幅 6～7mm）ほどの淡褐色から濃褐色のヤゴである。

【生態的な特徴】

成虫はふつう4月から10月頃に見られ、八重山諸島では周年見られる。幼虫はおもに夜間、[挺水植物](#)の茎や護岸壁などに[定位](#)して羽化をおこなう。羽化後、未成熟個体は羽化水域からやや離れた草むらや林縁などに移動して生活する。成熟した雄は水辺の植物の上などに止まって縄張りを張り、占有領域の上を飛んで雌を探す。交尾は終始飛びながらおこなわれ、交尾後、雌は単独で水域の植物の際や水面の浮遊物の周囲にやや間をおいて[連続打水産卵](#)をおこなう。雌が産卵している間、しばしば雄が上空でホバリングし、再三、交尾・産卵を繰り返すことがある。

【生息環境】

おもに平地から丘陵地の[挺水植物](#)が繁茂する池沼や湿地、湿原、水田など明るい止水域に生息し、ときには海岸線の汽水沼でも見られるなど広範囲に生息する。幼虫は、挺水植物の根元や植物性沈積物の陰に潜んで生活している。

【生息状況】

典型的な水田のトンボで、夏に赤い色をしているトンボは本種である。西南日本では各地でよくふつうに見られるが、東北地方では産地が限定される希な種である。開放的な水面を好み、水域が植物で覆われてくると見られなくなる。

【生態系保全のための留意点】

休耕田などで水が張ってあり、植物がまばらな水域、あるいは水溜りなどを好む。